

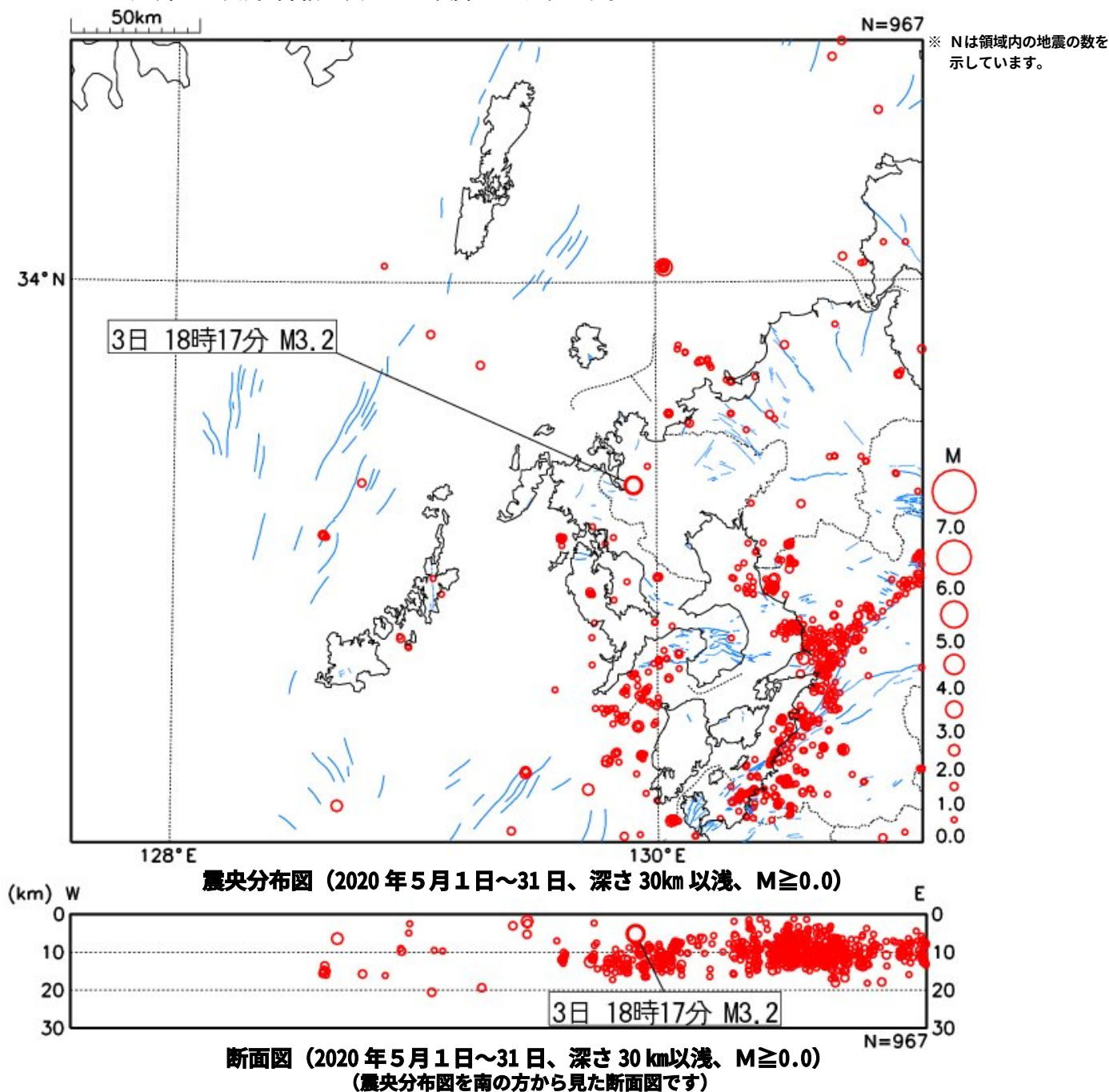
長崎県の地震活動概況（2020年5月）

令和2年6月8日

長崎地方気象台

地震活動の概況（2020年5月）

5月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は2回（下記震央分布図領域外1回を含む）でした（4月：1回）。詳細は次ページ以降のとおりです。

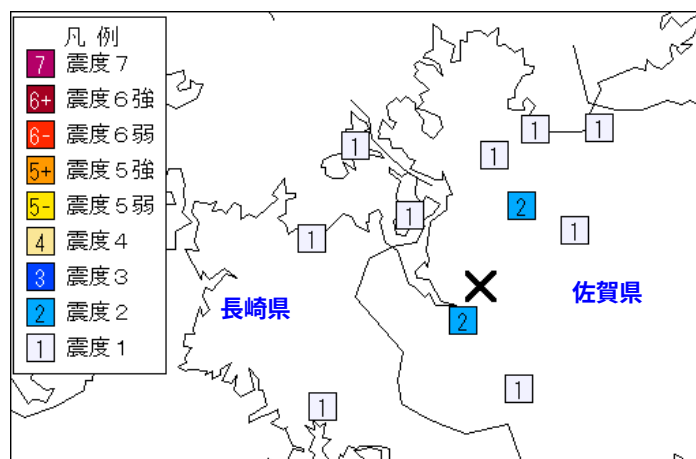


- ※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。
- ※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ※ 2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化（減少等）がみられることがあります。

佐賀県北部

3日18時17分に佐賀県北部で発生したM3.2の地震（深さ5km）により、佐賀県で震度2を観測したほか、長崎県と佐賀県で震度1を観測しました。長崎県では佐世保市と松浦市で震度1を観測しました（図1）。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（図2領域a）は、普段から地震活動がみられる領域で、2007年7月14日にM3.0の地震（深さ10km、最大震度2）が発生し、長崎県では、佐世保市と松浦市で震度1を観測しています（図2、図3）。



5月3日 18時17分 M3.2
図1 震度分布図（観測点別、×：震央）

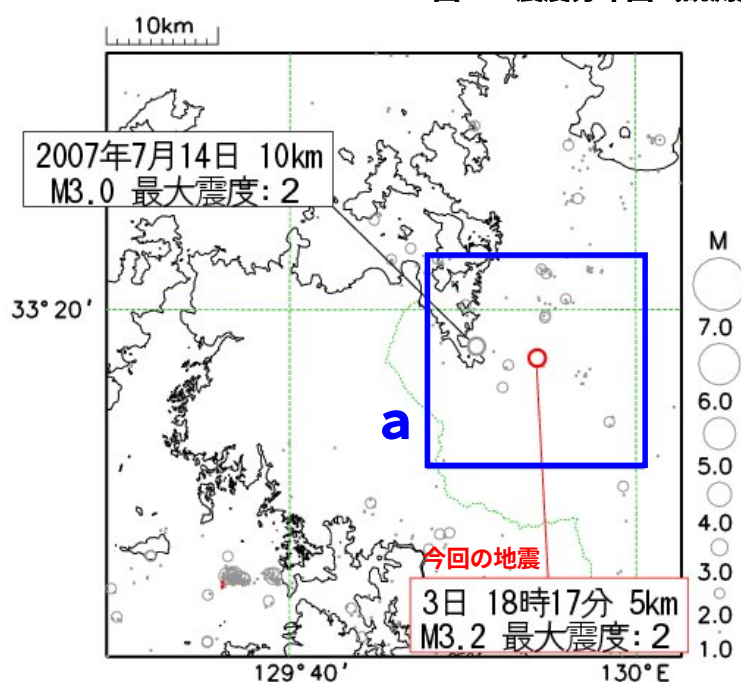


図2 震央分布図

(1997年10月1日～2020年5月31日 深さ0km～20km M $\geq$ 1.0)

※2020年5月1日以降の地震を赤○、2020年4月30日以前の地震を灰色○で表示

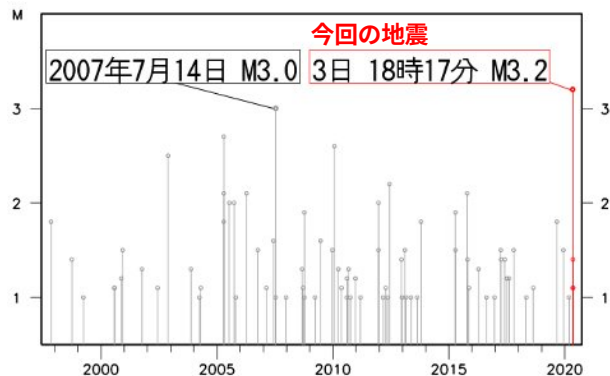
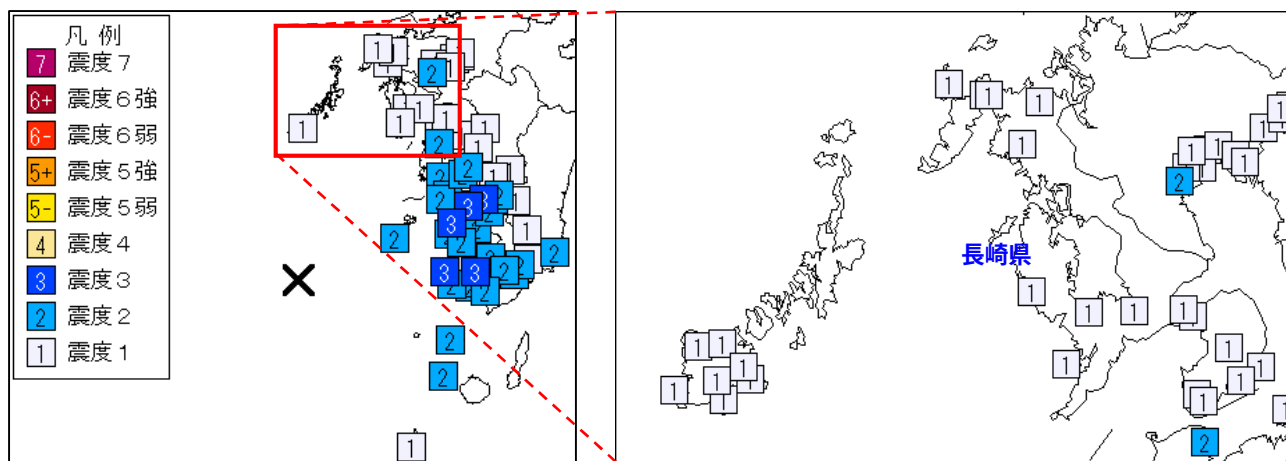


図3 図2領域a内の地震活動経過図

薩摩半島西方沖（1ページ震央分布図領域外）

3日20時54分に薩摩半島西方沖で発生したM6.2の地震により、鹿児島県で震度3を観測したほか、長崎県、鹿児島県、佐賀県、熊本県および宮崎県で震度2～1を観測しました。長崎県では平戸市、松浦市、長崎市、諫早市、雲仙市、南島原市、五島市、佐々町および時津町で震度1を観測しました（図4）。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（図5領域b）では、2015年11月14日にM7.1の地震（最大震度4、鹿児島県中之島で30cmの津波を観測）が発生し、長崎県では、対馬市を除く広い範囲で震度3～1を観測しています（図5、図6）。



5月3日 20時54分 M6.2
図4 震度分布図（左：市区町村別、右：観測点別、×：震央）

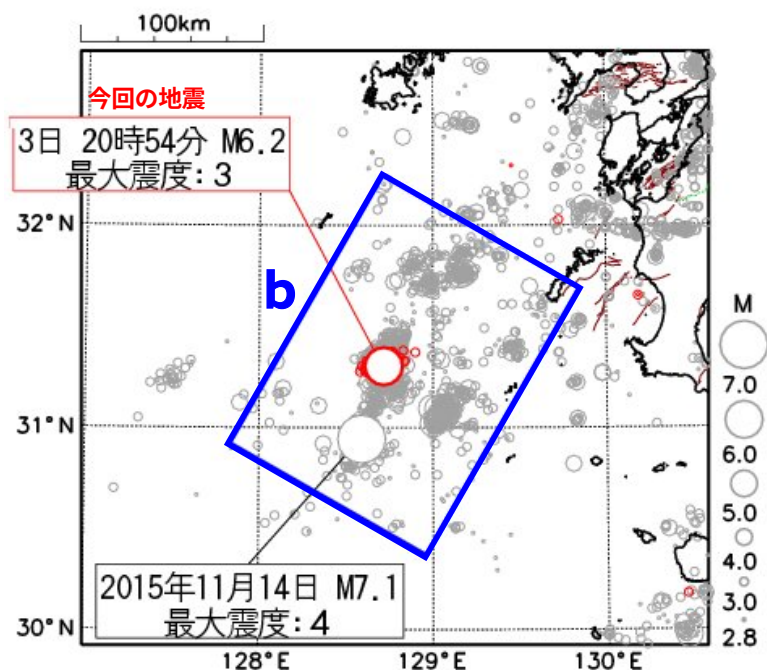


図5 震央分布図

(1997年10月1日～2020年5月31日 深さ0km～90km M $\geq$ 2.8)
※2020年5月1日以降の地震を赤○、2020年4月30日以前の地震を灰色○で表示
※図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

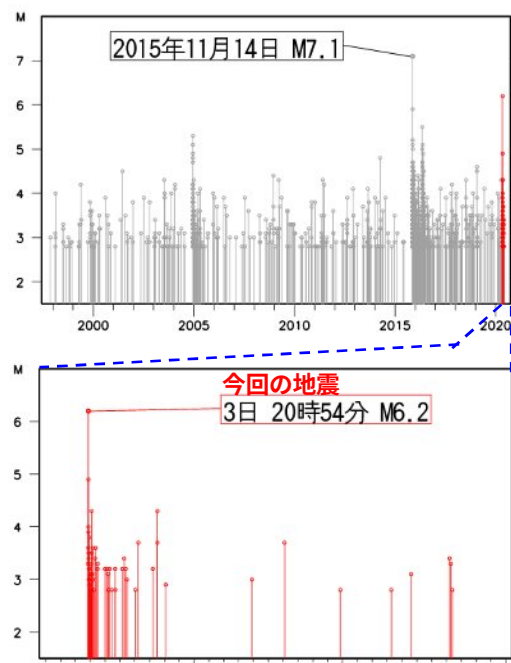


図6 図5領域b内の地震活動経過図

(上段：1997年10月1日～2020年5月31日、
下段：2020年5月1日～2020年5月31日)

長崎県内で震度1以上を観測した地震の表（5月1日～31日）

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2020年05月03日18時17分 震度 1：佐世保市八幡町＊ 松浦市志佐町＊ 松浦市鷹島町＊ 松浦市福島町＊	佐賀県北部	33° 17.6' N	129° 54.3' E	5km	M3.2
2020年05月03日20時54分 震度 1：平戸市岩の上町 平戸市鏡川町＊ 平戸市生月町＊ 松浦市志佐町＊ 佐々町本田原＊ 長崎市伊王島町＊ 長崎市神浦江川町＊ 諫早市多良見町＊ 諫早市森山町＊ 時津町浦＊ 雲仙市小浜町雲仙 雲仙市愛野町＊ 南島原市口之津町＊ 南島原市西有家町＊ 南島原市布津町＊ 南島原市加津佐町＊ 五島市富江町繁敷 五島市木場町 五島市上大津町＊ 五島市玉之浦町＊ 五島市岐宿町＊ 五島市富江町富江＊ 五島市三井楽町＊	薩摩半島西方沖	31° 18.2' N	128° 43.0' E	9km	M6.2

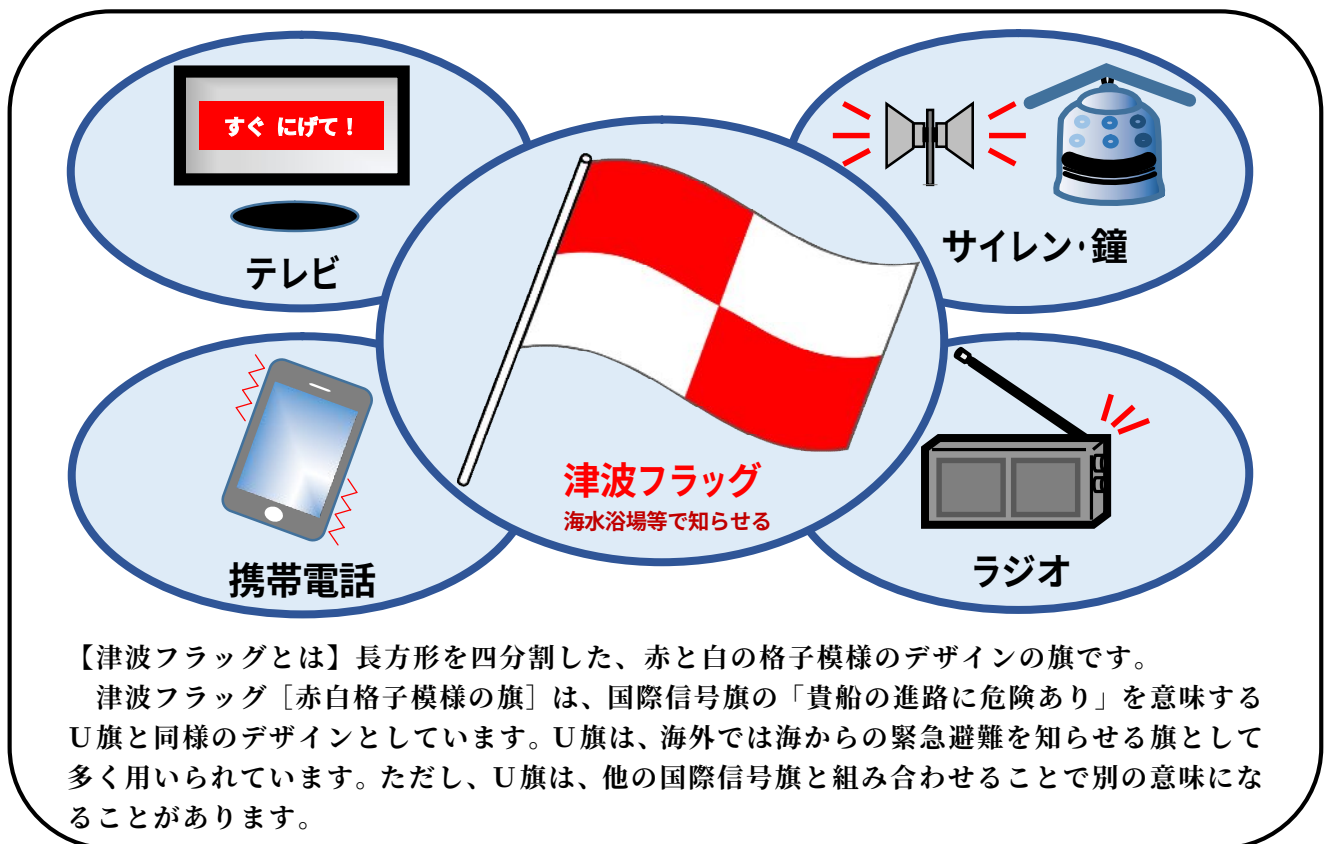
注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
＊を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

津波警報等の伝達に「津波フラッグ」が加わります

津波警報等[※]は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年夏から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われるようになります。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚障害者の方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできるようになります。海水浴場や海岸付近で「津波フラッグ」を見かけたら、速やかに避難を開始してください。 ※ここでは大津波警報・津波警報・津波注意報を津波警報等としています。

津波フラッグについては、気象庁ホームページの特設ページもご覧ください

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



情報 種類	津波注意報	津波警報	大津波警報		
定性表現	表記しない	高い	巨大		
予想される 津波の高さ	1m (0.2m－1m)	3m (1m－3m)	5m (3m－5m)	10m (5m－10m)	10m超 (10m－)

津波は繰り返し襲ってきますので、津波警報等が解除されるまで安全な場所から離れないでください。

津波警報等が出ている間は絶対に戻ってはいけません！